

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500035		
法人名	ライフサポート安心企業組合		
事業所名	グループホームみたけ		
所在地	岡山県笠岡市西大島3253		
自己評価作成日	平成22年1月25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390500035&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13番1号 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成22年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症進行予防、下肢筋力低下予防のため散歩に力を入れています。晴天時はホーム周辺を、雨天時はホーム内の廊下を歩いています。多い方で月に延べ60回ほど散歩に行かれる方もいらっしゃいます。水分補給は夏期は1日1500cc、冬期は1日1200ccを摂取目標にし、できるだけ摂取して下さるよう声かけ等で働きかけてます。
生活リハビリを積極的に取り入れ、家事全般は必ず利用者の方と共に行うようにしています。十分な睡眠確保のために日光療法を取り入れています。
学生ボランティアを積極的に受け入れています。
毎月1回は行事を行っています(誕生日会や季節に応じた行事)。
ホーム周辺は自然に恵まれた環境でゆったり過ごすことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『9人で安心して穏やかに生活できる。自分らしい生きがいを楽める。笑顔一杯で職員と共に過ごせるグループホーム』のイメージで3年前に設立して、利用者や職員が「自分らしい生活」を実現してきた。現在までのグループホームのケアや運営について理事長や管理者に迷いはないが、利用者の重度化や介護施設全般の実情を考えると利用者の終末までこのホームで家族の希望に応じて利用者と共に人生を歩んでいく事を覚悟し、これからは尊い命を最期まで共に大切にしていけるよう勉強していきたいと考えている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について会議で再確認をしたり事務所内にも理念について貼り出している。また、理念にもとづいてケアを行うよう心がけている。	職員採用時には理念についてよく説明し、共有し日々の支援に活かすよう心掛けています。開設して3年を経過したがその思いには全くぶれなく常にケアの根底にある。職員間で話し合っって目標も立てている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、散歩で地域の方と触れ合ったりしている。また、中学生のボランティアを積極的に受け入れ交流をはかっている。	代表者も管理者も地元出身で近隣に在住しているので、地域に受け入れられる基盤があり、散歩に出れば野菜や花を貰って帰る等日常的な付き合いができています。ホームの祭りには地域の殆どの方が来てくれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生のボランティアには認知症の方に対する接し方や病気の理解などを教えているが中学生以外の方には生かされていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員会議で運営推進会議での結果報告を行い、職員間で話し合いも行っているがサービス向上には活かしかれていない。	複数の中学校の校長・利用者・家族・民生委員・愛育委員・介護保険課担当者等が出席して、運営推進会議を開催している。出席者より地域のふれあいサロンの紹介を受け、利用者の参加が定着する等、開催効果も挙がっている。	ホームの行事と運営推進会議を同時開催してみてもどうだろう。会議開催回数も増え、利用者と一緒にの行事参加でより理解が深まり、具体的な話し合いができてきそう。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では介護保険課か地域包括支援センターの職員に参加して頂いている。また、対応が不明な様々なことで意見を伺っている。	何かあればその都度市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。運営推進会議には介護保険課担当者や地域包括支援センター職員が出席しているので、ホームの実情を理解し、連携体制ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は職員会議で身体拘束についての話をしている。また、緊急止むおえない場合においてのみご家族から同意書を取り、身体拘束を行っている。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、身体拘束は個人の自由を奪い尊厳を傷つける行っってはならない行為だと、職員ミーティングでも良く話している。職員の行きとどいた見守りで玄関施錠もなかった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前は市や社協などが行っている高齢者虐待防止に関するセミナーに職員が参加し、職員会議で報告を行っていたが、最近では参加できてない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいらっしゃる、制度についての理解はあるが活用の支援には至ってない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に契約書や重要事項説明書を用いて十分な説明を行うと共にグループホーム利用時のリスクなどの話もしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望があった場合緊急の要望ならば管理者の判断で、それ以外は職員会議で職員間で話し合い要望を反映できるようにしている。	利用者の近況を伝える写真満載の“みただより”と個別のお便りを毎月家族に送付し、面会時や必要に応じて電話等で相談し合っている。運営推進会議に家族も出席しており、公の発言の場も提供出来ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催しており、その場で職員からの意見や提案を聞くことができ、話し合いで反映できるようにしている。	定期的に職員会議を開催し、意見交換している。今回の自己評価も全職員がそれぞれ評価項目について考えてまとめた。利用者と触れ合う時間を増やすとか、家事に毎日参加して貰うようにする等、話し合っただけで目標を立て取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	給与に関しては交付金を活用して少しでも水準を上げるようにしている。労働内容にしても職員の負担が重くならないように会議等で意見を聞き定期的に改善を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では毎月1回の職員会議において管理者から認知症ケアや医療的な話を研修を兼ねて行っているが、外部研修はあまり活用できておらず、来年度は積極的に活用する予定。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は協会等の会合に参加しているが、その他の職員は参加できていない。今後は参加の機会を作りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に面会を行いその中で不安や要望を聞くようにしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に面会を行いその中で不安や要望を聞くようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に面会を行い要望や聞き取りを行い必要なサービスをすすめることもある。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活の中の行動を共にすることで共に暮らしているといった意識を持ち介護に当たっている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時にはゆったり話が出来るよう環境を整え、状態報告やアルバムなどを見ていただいてホームでの生活の様子をお知らせしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族が馴染みの美容院にお連れしたり、馴染みの方が面会に来られたりはしているが、ホームとしては支援できていない。</p>	<p>近隣出身の利用者が殆んどなので、散歩や買物・地域行事に出掛けると知り合いに会い、声を掛けられる。友人や知人から電話があり、よくホームにも面会に来てくれる。ホームは「いつでもどうぞ、又来て下さい」と歓迎している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う方同士で過ごせるよう支援を行ったり、レクリエーション等で関わり合い、話が弾むように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移った方は面会に行く場合もあるが、必ずしも全員の方に面会を行ってはいない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でその方の思いを引き出せるような声かけをしており、言葉や表情からもそれとなく確認している。	手伝いを頼むと「何言よん、私はここへ休みに来とる」等、こうしたいとはっきり言う人が多い。食べ物や行動、活動や事柄などその人の好きな事を全職員で情報収集し、個別ミニフェイスシートにまとめ、把握に努める取り組みもあった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりから昔話を聞いたりし、これまでどんな生活をしてこられたのか把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の方の意思、体調などを毎日観察するようにしている。また、毎月会議ではアセスメントを行い、職員全員の意見を集約している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等で情報交換を行い、利用者の方にとって一番いい計画を作成している。	本人・家族から計画作成担当者がよく話を聞いて、情報を職員に伝えプランを作成している。日々の様子を見ながら検証し、ミーティングで全職員の意見を聞いてプランに反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、利用者の方の状態変化、気づきなどをしっかり記録し、勤務前には記録の確認も行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向に配慮しながら、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきサロン、買い物、学生ボランティアなどは活用できているが、回数は少ない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームのかかりつけ医の受診を勧めており、納得いただいている。ご家族が特に強く希望される場合はその医療機関を受診している。	市外の病院等は家族に受診をお願いする時もあるが、基本的にホームで受診支援を行っているので、それぞれの利用者のかかりつけ医との関係は構築できている。何かあれば対応してもらえるホームの協力医院も確保できている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携はうまく取れているが、一人しかいないため不安もある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報提供は相互に行えている。また、対応可能なまでに回復されたら早期の退院を要請することもある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を尊重し、主治医と連携をとりながらターミナルケアに取り組んでいる。	本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、家族や医師の協力も得られるならば、職員ともよく相談して、出来る限りの支援をしたいと考えている。ターミナル経験はまだないが、年数経過による重度化は避けられないので、家族と何度も話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが応急手当の訓練はしていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年1回は避難訓練と通報訓練を行っている。	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し、利用者也参加して昼を想定した避難訓練を実施した。来月にはスプリンクラー設置行事を予定し、今後は避難訓練の回数をもっと増やしたいと考えている。	代表者も管理者も地元出身なので、地域との協力体制も出来ていると思うが、運営推進会議で災害対策について話し合ってみても良さそうだ。具体的な提案が出るかも知れない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し興味のあること、人生観などを教えていただく気持ちで接している。	昔仕事をしていた人は、出来る家事を手伝いし職員からの労いの言葉に満足そう。重度化のため食事介助を受ける仲間を見ると気分が落ち込む人には、見えない席にする等、配慮していた。その人の特質に合わせた対応を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話などでご本人が望んでいることを聞き出して決定している。例えば誕生日会などでは誕生日の方がメニューを決定することもある。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、ご自宅で過ごされていたようにゆったりストレスを感じないように支援できている。ただし、意思決定が難しい方へはこのような支援ができていないこともある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の服装の好みを把握している。また、身だしなみに気をつけ可能であればご本人の好みの恰好をして頂ける働きかけを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理することで料理の好みの把握ができ、ご本人も調理に関わっていることを感じて頂き、興味をもって頂けるよう努めている。	ミキサー食・流動食・きざみ・とろみ等、その人の状態に合わせ食べやすく調理し、介助の必要な人の傍らには職員が付いて、皆で楽しく食事していた。待ち切れずすぐ食べ始める人や、ゆっくり時間をかけて食べる人もいた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスを考え提供している。特に水分摂取量には気をつけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方にはガーゼや液体歯磨きなどを使用して、ひとりひとりに合った方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握している。トイレに座っての排泄を主に誘導や声かけを行っている。一人ひとりに合わせて紙パットや紙パンツを使用している。	各自の排泄パターンは把握し、タイミングを見ては声をかけトイレ誘導できていた。寝た切りの人も一日一回は必ず便座に座るよう支援し、紙パンツの人も昼間は布パンツでの対応を実施していた。各居室にトイレがあるので失禁時も安心だ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日自家製ヨーグルトを朝食と昼食に提供している。排便が2日ないとヨーグルトに自家製プルーンジャムを混ぜたものを提供している。また、便秘に関わらず散歩も積極的に行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係でグループホーム側で入浴日と時間を決定しているが、入浴を拒否された場合は後日へ変更している。	夏場は二日に1度、冬場は三日に1度入浴してもらうよう誘っている。入浴拒否の場合も無理強いないで、タイミングをずらせて声をかけ、その気になるまで気長に待ち、それでも駄目なら日をずらす等柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に気を配り、日光浴や散歩、レクリエーションなどを行い安眠支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服用薬の詳細情報を保管し、服薬に変更があった場合は連絡ノートに記入し、確認できるようにしている。また、職員同士でも薬に関するさまざまなことで日々声をかけ合っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、洗濯干しやたたみ、掃除、買い物などお願いできる場所ではお願いし、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩を晴天時は毎日行っている。2日に1度は買い物に出かけている。誕生会のない月は外食か公園にピクニックに出かけている。急な外出希望も可能な限り対応している。	初詣や花見(梅・桜・かきつばた・菜の花・ばら)等季節の行楽以外に、地区行事(花火大会・菊花展・公民館祭り・ひまわりフェスティバル)や学校行事(とんど祭り・オープンスクール・体育祭)等にも積極的に出掛けていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持たれている方には買い物の際、ご本人がほしい物を買っていただくようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っているが、電話や手紙を希望される方はあまりおらず、職員が促すも難しい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激はない。季節感のある飾り付けを行ったり、介護相談員の意見も取り入れて工夫を行っている。	食卓以外に、テレビを囲んで長ソファのリビングや日当りの良いサンルームもあり、居場所が多い。木の温か味溢れる拘りの造りで、三方に窓を配しどこからも外の景色がよく見えて、明るく開放的な感じがする。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席の配置やTPOの使い分けでくつろいでもらえる空間づくりに努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族へご本人がご自宅で使われていたものを持ってきて頂くお願いをしている。	トイレと洗面所、クローゼットは備え付けで、窓からの眺めも良い。入口に掲げた立派な木の表札に自分の家の趣きを感じる。飼っていたインコの写真を飾る人や、椅子・タンス・テレビ等を持ち込む人も居て、その人らしい居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体能力と生活スタイルに応じて寝具の選択を行ったり、必要に応じて居室内への手すりの設置、トイレの肘掛の設置等を行っている。		